

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年6月22日
【事業年度】	第68期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）
【会社名】	イハラサイエンス株式会社
【英訳名】	IHARA SCIENCE CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 長尾 雅司
【本店の所在の場所】	東京都港区高輪3丁目11番3号（イハラ高輪ビル）
【電話番号】	03（6721）6988（代）
【事務連絡者氏名】	執行役員経営統轄室長 十亀 猛
【最寄りの連絡場所】	東京都港区高輪3丁目11番3号（イハラ高輪ビル）
【電話番号】	03（6721）6988（代）
【事務連絡者氏名】	執行役員経営統轄室長 十亀 猛
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高 (百万円)	10,527	10,249	9,158	10,798	11,153
経常利益 (百万円)	1,867	1,345	1,196	1,709	1,746
当期純利益 (百万円)	1,087	699	760	1,047	1,022
包括利益 (百万円)	1,084	698	772	1,070	1,151
純資産額 (百万円)	7,872	8,395	8,964	9,928	10,844
総資産額 (百万円)	12,798	14,096	13,687	14,472	15,037
1株当たり純資産額 (円)	673.91	718.73	767.38	843.36	921.18
1株当たり当期純利益 (円)	92.73	59.85	65.09	89.62	86.88
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	61.5	59.6	65.5	68.6	72.1
自己資本利益率 (%)	14.7	8.6	8.8	11.1	9.8
株価収益率 (倍)	6.06	9.19	8.16	7.82	10.95
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,987	342	1,372	97	1,334
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	184	1,862	738	649	879
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	832	1,398	1,138	790	633
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	5,660	5,554	5,062	3,717	3,537
従業員数 (人)	456	451	449	449	439
[外、平均臨時雇用者数]	[54]	[50]	[52]	[50]	[49]

(注) 1. 売上高には消費税等は含んでおりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高 (百万円)	10,016	9,661	8,710	10,427	11,155
経常利益 (百万円)	1,508	1,131	1,137	1,527	1,701
当期純利益 (百万円)	1,265	588	727	943	1,352
資本金 (百万円)	1,564	1,564	1,564	1,564	1,564
発行済株式総数 (千株)	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000
純資産額 (百万円)	7,460	7,873	8,433	9,267	10,474
総資産額 (百万円)	11,841	12,689	12,507	13,170	14,072
1株当たり純資産額 (円)	638.62	674.03	722.01	787.25	889.78
1株当たり配当額 (円)	15.00	15.00	15.00	20.00	22.00
(内1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	107.90	50.38	62.26	80.69	114.87
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	63.0	62.0	67.4	70.4	74.4
自己資本利益率 (%)	18.3	7.7	8.9	10.7	13.7
株価収益率 (倍)	5.21	10.92	8.53	8.69	8.28
配当性向 (%)	13.9	29.8	24.1	24.8	19.2
従業員数 (人)	343	347	333	331	344
[外、平均臨時雇用者数]	[44]	[38]	[40]	[38]	[35]

(注) 1. 売上高には消費税等は含んでおりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

年月	沿革
昭和16年4月	東京都港区浜松町3-2に於て、伊原政次個人経営の伊原商会を創業し、鉄管継手の販売を開始した。
昭和22年5月	組織を株式会社とし、社名を伊原産業株式会社に変更、鉄管継手、バルブコック、機械、工具、電機材料等の販売を開始した。
昭和28年9月	仕入販売から外注工場による製作販売に転進し、高圧用鍛造継手、高圧管フランジを主要商品とした。
昭和35年8月	配管作業に画期的な省力化をもたらす「くい込み継手」の開発を契機に、静岡県田方郡修善寺町熊坂28に大仁工場を新設した。
昭和37年10月	社名を伊原高圧継手工業株式会社に変更した。
昭和38年6月	株式を日本証券業協会東京地区協会の店頭売買銘柄として登録した。
昭和41年9月	大仁工場を静岡県田方郡大仁町吉田153に新設移転した。
昭和45年5月	岐阜県恵那郡付知町5591に付知工場を新設した。
昭和45年10月	配管工事部門を分離独立させ、イハラシステムエンジニアリング株式会社を設立し、関係会社とした。
昭和55年2月	イハラパイピングサービス株式会社（旧社名：三和興業株式会社）へ資本参加し、関係会社とした。
昭和56年4月	岐阜県恵那郡付知町上林10424に鍛造工場を新設した。
昭和57年5月	山形県東根市大森工業団地に関係会社山形イハラ株式会社（旧社名：山形伊原高圧株式会社）を設立し、専属外注工場とした。
平成元年4月	大仁工場を売却し、名称を技術開発センターとして、静岡県田方郡中伊豆町下白岩1251に新設、移転した。
平成3年1月	付知工場を鍛造工場隣接地に新設移転し、鍛造工場を統合した。
平成5年12月	本社（事務所）を東京都品川区大井4丁目13番17号に移転した。
平成9年10月	社名をイハラサイエンス株式会社に変更した。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所（現東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場した。
平成22年4月	イハラシステムエンジニアリング株式会社を吸収合併した。
平成24年3月	本社（事務所）を東京都港区高輪3丁目11番3号に移転した。
平成24年4月	台湾国台中市に關係会社台湾伊原科技股份有限公司を設立した。
平成24年10月	中国江蘇省常熟市に關係会社蘇州伊原流体系統科技有限公司を設立した。
平成24年12月	韓国京畿道廣州市に關係会社イハラ코리아株式会社を設立した。
平成25年6月	米国テキサス州ダラスに關係会社イハラサイエンスUSA株式会社を設立した。
平成26年4月	イハラパイピングサービス株式会社を吸収合併した。

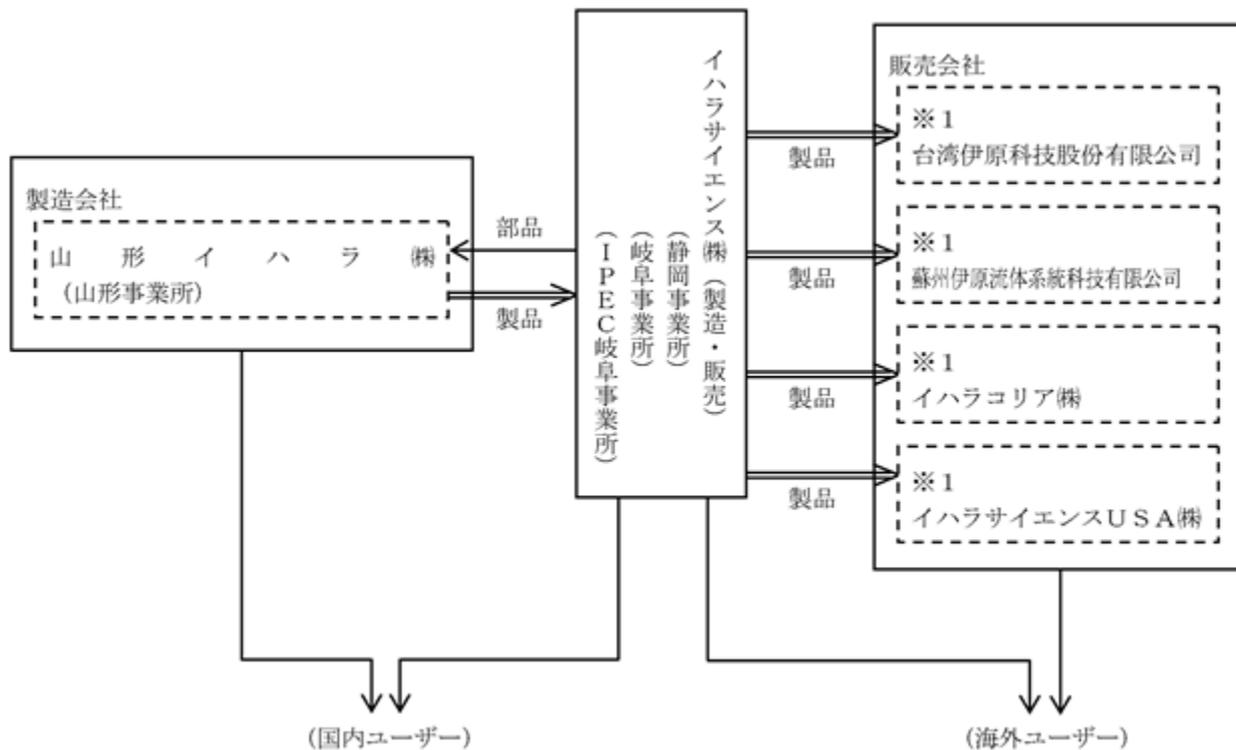
3【事業の内容】

当社グループは、イハラサイエンス株式会社（当社）及び連結子会社1社並びに持分法適用の非連結子会社4社により構成されており、事業は、配管用継手、バルブ類の製造及び販売、配管工事並びに機械器具設置工事の設計、施工及び請負、配管システム並びに配管システムを構成する部材等の設計、製造、請負及び販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の4部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

- (1) 静岡事業所 主要な製品は半導体・液晶製造装置用のバルブ、配管システム等であります。
 - (2) 岐阜事業所 主要な製品は油圧用継手、バルブ等であります。
 - (3) 山形事業所 主要な製品は半導体・液晶製造装置用の継手、バルブ等であります。
 - (4) I P E C 岐阜事業所 主要な製品は油圧用ロング継手、カセット、配管工事等であります。
- 以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



(注) 山形イハラ株式会社は連結子会社であります。

1 非連結子会社で持分法適用会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 山形イハラ株 (注)1	山形県東根市	150	継手・バルブの製造販売	100.0	当社ステンレス製継手、バルブを製造しております。役員の兼任、資金援助及び設備の賃貸あり。

(注)1．特定子会社に該当しております。

2．上記のほかに持分法適用非連結子会社が4社あります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成27年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
静岡事業所	94 (9)
岐阜事業所	132 (16)
山形事業所	92 (14)
IPEC岐阜事業所	51 (4)
報告セグメント計	369 (43)
その他	57 (4)
全社(共通)	13 (2)
合計	439 (49)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成27年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
344 (35)	41.6	16.0	5,143,094

セグメントの名称	従業員数(人)
静岡事業所	94 (9)
岐阜事業所	132 (16)
IPEC岐阜事業所	51 (4)
報告セグメント計	277 (29)
その他	54 (4)
全社(共通)	13 (2)
合計	344 (35)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、昭和38年10月に結成されました。

平成27年3月末日現在の組合員数は255人で、外郭団体には加入せず、労使協調の基本を遵守し穏健な活動を行っております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、全体として緩やかな回復基調が続きました。中国は成長が以前より減速したものの、輸出が持ち直し、個人消費も比較的堅調に推移しました。また、米国では雇用環境の改善などを背景に個人消費が堅調に推移し、景気は回復傾向をたどりました。欧州経済においてはまだ弱さが残るものの、主要国ドイツにおいて持ち直しの動きが見られました。

一方、国内経済は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がありましたが、年度後半には企業収益に改善の動きがみられるなど、緩やかな回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、お客様の信頼と期待を獲得するため、社員一人一人が自分の責任を果たし、品質、スピード、実行にこだわり、グローバルな競争の中で、さまざまなお客様の問題を解決し、お客様からありがとうと感謝される体制作りに取り組んでまいりました。

販売面では、当社グループの主な市場である工作機械、産業機械、建設機械市場におきましては、国内需要が堅調に推移し、前年同期の売上高を上回る結果となりました。また、半導体・液晶製造装置関連市場におきまして、下期から設備投資の拡大に伴い、当社グループへの引き合い・受注量が順調に回復したため、売上高が伸び、前年同期の売上高を上回りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は111億53百万円（前年同期比3.3%増）となり、営業利益は18億9百万円（同5.2%増）、経常利益は17億46百万円（同2.2%増）、当期純利益は10億22百万円（同2.4%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

当社は製品構成から以下4事業所を報告セグメントとしております。

（静岡事業所）

半導体及び液晶製造装置関連市場向けのクリーンなバルブ、配管ユニット等を生産しておりますが、第2四半期まで半導体及び液晶製造装置関連の需要が伸びず、売上高は19億15百万円（前年同期比10.0%減）、セグメント利益は3億70百万円（同35.5%減）となりました。

（岐阜事業所）

一般産業の油空圧配管用の継手、バルブ等を生産しており、重点市場である産業機械・工作機械市場向けは、需要が回復してきたため、売上高は44億14百万円（前年同期比3.8%増）、セグメント利益は16億55百万円（同7.3%減）となりました。

（山形事業所）

半導体及び液晶製造装置関連、さらに分析・各種計装及び食品・パワープラント・化学市場に向けての継手、バルブ等を生産しておりますが、半導体及び液晶製造装置関連の需要が伸び、売上高は36億45百万円（前年同期比5.2%増）、セグメント利益は12億18百万円（同9.1%増）となりました。

（IPEC岐阜事業所）

流体別・用途別に最適な配管システムを提供することを目標にロング継手、カセット生産、配管設計・施工を行っておりますが、建設機械向けの需要が持ち直したため、売上高は12億70百万円（前年同期比4.1%増）、セグメント利益は2億30百万円（同13.2%減）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローで13億34百万円のプラス、投資活動によるキャッシュ・フローで8億79百万円のマイナス、財務活動によるキャッシュ・フローで6億33百万円のマイナスとなりました。この結果、現金及び現金同等物は前連結会計年度末より1億79百万円減少しました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動の結果得られた資金は13億34百万円（前年同期は97百万円）でありました。この増加の主な要因は、税金等調整前当期純利益17億18百万円の計上、減価償却費2億57百万円、売上債権の増加による2億82百万円の減少、棚卸資産の増加による39百万円の減少、仕入債務の増加による80百万円増加、法人税等の支払額6億91百万円によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における投資活動の結果使用した資金は8億79百万円（前年同期比35.4%増）でありました。この増加の主な要因は、投資有価証券の取得による支出が5億65百万円、子会社の株式の取得および出資金による支出が64百万円、固定資産の取得による支出が2億15百万円であったことによります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における財務活動の結果使用した資金は6億33百万円（前年同期比19.8%減）でありました。この減少の主な要因は、長期借入金の返済による支出3億48百万円、社債の償還による支出50百万円、配当金の支払いによる支出2億35百万円でありました。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	前年同期比(%)
静岡事業所(百万円)	1,877	4.0
岐阜事業所(百万円)	4,491	8.4
山形事業所(百万円)	3,335	1.0
IPEC岐阜事業所(百万円)	1,289	9.6
報告セグメント計(百万円)	10,994	3.3
その他(百万円)	-	-
合計(百万円)	10,994	3.3

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
静岡事業所	1,947	0.3	166	25.8
岐阜事業所	4,364	12.6	310	15.2
山形事業所	3,474	4.4	223	18.6
IPEC岐阜事業所	1,298	7.5	113	34.5
報告セグメント計	11,086	7.0	813	20.4
その他	206	63.9	-	-
合計	11,293	3.3	813	20.4

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	前年同期比(%)
静岡事業所(百万円)	1,913	3.3
岐阜事業所(百万円)	4,324	14.0
山形事業所(百万円)	3,438	4.7
IPEC岐阜事業所(百万円)	1,270	8.3
報告セグメント計(百万円)	10,946	7.0
その他(百万円)	206	63.9
合計(百万円)	11,153	3.3

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

国内経済は雇用環境の改善や円安の定着などで、徐々に明るさを取り戻してきていると推測されますが、中国経済や欧州経済の下振れリスクやギリシャの財政問題、金融緩和策の長期化によるバブルリスクなど、国内外で先行きが不透明であります。

このような状況の中、当社グループの主要な市場である半導体・液晶製造装置関連市場、工作機械・産業機械関連市場におきましても、楽観を許さない状況であることに変わりはなく、中国はじめ韓国や新興国における成長の slowdownと相まって、グローバルな競争環境はより激しさを増しています。当社グループは、これまでの常識にとられることなく、調達から製造・検査・梱包・配送までのすべての工程を見直すことにより、少量・多品種・短納期への対応など、他社との違いをより鮮明にし、お客様の多様なご期待にお応えできる体制を整えてまいります。

また、これまで培ってきた独自技術に加え、大学や研究機関との連携によって開発の陣容強化を図り、新しいコンセプトの製品とサービスを提供し、「最適配管システムで世界のお客様のお役に立つ」夢を追い求め、価値創造企業として成長し、収益性を高めてまいります。

4【事業等のリスク】

日本経済は、短期的には堅調に推移していくと思われませんが、中長期的には経営環境は厳しさを増す流れに変わりはなく、また海外情勢を背景とした急激な変化も予想されます。このような状況の中で当社グループは、変化対応力のある体質づくりと価値創造企業への変革に取り組みます。研究開発では流体別用途別に最適な配管システムの開発を進め、「エコロジー、エコノミー、イージー」の3e-fitを実現する新継手を組み合わせて、お客様にとってなくてはならない製品開発を目指します。生産においては従来より取組んでおります少量・多品種・短納期対応をさらに充実させるとともに、配管モジュール・システム・工事の設計・製作・据付・施工等、お客様に提供できるサービスを充実させてまいります。販売面では、営業と開発が一体となり、流体別用途別に最適な配管システムを開発して面展開し、お客様にとってなくてはならない企業を目指します。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、お客様の潜在ニーズを具現化して喜んでいただける『こだわりの最適配管システム』をご提供することを目標に、それを実現する材料と部品と配管システムの開発を基本コンセプトとして取り組んでおります。

開発を進めるに当たっては、グループ内の研究開発チームの強化に加えて、一般社団法人イハラサイエンス夢創造支援センターの主な事業活動の一つとして、いくつかの外部研究機関や多くの大学と連携を更に強化し開発力の最大化を図っております。

一般産業向けの配管システムにおいては、油、潤滑液、冷却水、各種ガスなどの配管システムで、より進化した最適配管のカセット化を進め、「エコロジー、エコノミー、イージー」の3e-fitを実現する新継手、新機能バルブやその他の配管構成部品を組み合わせて市場に出し続けております。

半導体・液晶製造装置関連市場やプラント関連市場のクリーン配管システムにおいても、同様に3e-fitを実現する画期的な高性能・低コスト継手やバルブを市場投入しております。

従来の継手、バルブといった固定観念を完全に覆す「くん」「チャン」シリーズの新製品は、その代表であり、市場に大きなインパクトを与えつつあり、今後の伸びが期待されます。

また、配管部品と配管システムを生産するための生産技術についても、最先端技術と自社開発生産技術を融合した新生産方式によって、さらに競争力を持った『最適配管システム』をお客様にお届けする努力をしております。

なお、当連結会計年度における研究開発費は2億43百万円であります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループに関する財政状態及び経営成績の分析・検討内容は原則として連結財務諸表に基づいて分析した内容であります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1)重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。その作成には経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額および開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、第5 経理の状況 の連結財務諸表の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しておりますが、特に次の重要な会計方針が連結財務諸表における重要な見積りの判断に大きな影響を及ぼすと考えております。

収益の認識基準

当社グループの売上高は、通常、注文書に基づき顧客に対して製品が出荷された時点で計上されます。

貸倒引当金の計上基準

当社グループは、顧客の支払不能時に発生する損失の見積額について、貸倒引当金を計上しております。顧客の財務状態が悪化し、その支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上または貸倒損失の計上が必要となる可能性があります。

棚卸資産の評価基準

当社グループは、棚卸資産の資産性に基づき評価減を計上しております。実際の将来需要または市場が悪化した場合、追加の評価減が必要となる可能性があります。

繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産の回収可能性を評価するに際して、将来の課税所得を合理的に見積っております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存いたしますので、その見積額が減少した場合は繰延税金資産が減額され税金費用が追加計上される可能性があります。

(2)経営成績の分析

当社グループの経営成績は、当連結会計年度において連結売上高は111億53百万円、経常利益は17億46百万円、当期純利益は10億22百万円となっております。前連結会計年度と比較しますと、連結売上高は3.3%、経常利益は2.2%増加しております。これは、第3四半期から液晶・半導体製造装置関連市場において引合い・受注が増加したこと等によるものであり、当期純利益が2.4%減少したのは、固定資産の減損及び法人税等の税率変更に伴う繰延税金資産の取崩による法人税等の増加によるものであります。

以下、連結損益計算書に重要な影響を与えた要因について分析いたします。

売上高の分析

当連結会計年度の連結売上高は111億53百万円ですが、これを種類別に分析すると、前連結会計年度よりも継手は4億72百万円、バルブ・配管システムは1億29百万円増加し、工事売上は58百万円減少しております。これは当連結会計年度において、一般産業機械および液晶・半導体製造装置関連市場における受注が増したためであります。また、工事売上は受注が減少したためであります。

販売費一般管理費の分析

当連結会計年度の販売費及び一般管理費は前連結会計年度に比べ2.7%減の17億8百万円となっております。これは売上高増加に伴い荷造運賃が増えたものの、賞与、退職給付費用等の人件費が減少したこと、寄付金、交際費等の経費が減少したことなどによるものであります。

営業外損益の分析

当連結会計年度の営業外収益は、前連結会計年度に比べ40.4%増の82百万円となっております。これは受取利息及び配当金が13百万円増加したことや為替差益が9百万円増加したことなどによるものであります。また営業外費用は、前連結会計年度に比べ112.2%増の1億45百万円となっております。これは支払利息が5百万円、売上債権売却損が4百万円減少したものの、持分法投資損失が63百万円増加したことなどによるものであります。

(3)資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度の現金及び現金同等物の期末残高は35億37百万円となっており、前連結会計年度と比較して1億79百万円減少しております。これは主として営業活動によるキャッシュ・フローで得た資金13億34百万円より、投資有価証券の取得、設備投資や借入金の返済、社債の償還及び配当金の支払い等の支出が上回ったことによるものであります。

資金需要について

当連結会計年度においては、生産設備増設等のため2億4百万円支出しております。当該支出は手許資金により充てたしましたが、今後も施設設備充実のための支出が見込まれます。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループの当連結会計年度の設備投資額は2億15百万円で、その内訳の主なものは新製造ライン増設などの生産設備増強等であります。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

(平成27年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
静岡事業所 (静岡県伊豆市)	静岡事業所	パルプ製造設備	203	66	20 (3,178)	20	311	94 [9]
岐阜事業所 (岐阜県中津川市)	岐阜事業所	継手製造設備	152	230	152 (9,892)	62	597	132 [16]
I P E C 岐阜事業所 (岐阜県中津川市)	I P E C 岐阜事業 所	継手製造設備	89	60	4 (10,152)	5	160	51 [4]
山形工場 (山形県東根市)	山形事業所	継手製造設備	38	31	279 (27,573)	0	349	— [—]
本社ほか5営業所 (注)3	その他	管理及び販売 事務所	333	0	906 (3,388)	15	1,255	67 [5]
保養施設 熱海ほか2ヶ所	その他	厚生施設	35	—	27 (106)	0	62	— [—]
独身寮 (岐阜県中津川市)	その他	厚生施設	106	—	28 (2,892)	0	135	— [1]

(2) 国内子会社

(平成27年3月31日現在)

会社名	セグメントの名称 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
山形イハラ㈱	山形事業所 (山形県東根市)	継手製造設備	474	101	0 (42)	43	619	92 [14]

(注)1. 帳簿価額のうち、「その他」は建設仮勘定を含んでおります。

なお、金額には消費税等は含んでおりません。

2. 提出会社における山形工場の設備は、すべて山形イハラ株式会社へ賃貸しているものであります。
3. 連結会社以外へ一部賃貸しております。
4. 従業員数の[]は臨時従業員数を外書しております。
5. このほか賃借中の建物629㎡、及び土地17,607㎡があります。
6. 当社グループの在外子会社における主要な設備は、重要性が乏しいため記載を省略しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、グループ会議において提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	56,000,000
計	56,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年6月22日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,000,000	同左	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	14,000,000	同左	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減 額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成14年6月27日(注)	-	14,000	-	1,564	987	618

(注) 資本準備金減少額は資本準備金の取崩による欠損填補額であります。

(6)【所有者別状況】

平成27年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	7	5	50	10	1	1,063	1,136	-
所有株式数 (単元)	-	8,733	52	51,572	18,460	10	61,122	139,949	5,100
所有株式数の 割合(%)	-	6.25	0.04	36.85	13.19	0.01	43.68	100.00	-

(注) 1. 自己株式2,227,635株は、「個人その他」に22,276単元及び「単元未満株式の状況」に35株を含めて記載しております。

2. 上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、40単元含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成27年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社高原興産	東京都港区高輪3丁目25-27-1301	1,233	8.81
ビービーエイチ フィデリティロープライズド ストック ファンド(常任代理人株式会社三菱東京UFJ銀行)	アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストン市サマー・ストリート245番地 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	1,134	8.10
イハラサイエンス取引先持株会	東京都品川区港区高輪3丁目11-3	626	4.47
ユニテック株式会社	愛媛県四国中央市川之江町4087-24	545	3.89
株式会社アクエイト	愛媛県四国中央市金田町半田乙345-1	533	3.81
中野琢雄	千葉県八千代市	458	3.28
東京ソフト株式会社	東京都品川区大井1丁目28-1	451	3.22
ミライアル株式会社	東京都豊島区東池袋1丁目24-1	380	2.71
株式会社キッツ	千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目10-1	259	1.85
ノムラビービーノミニーズテイーカーワンリミテッド(常任代理人野村證券株式会社)	英国ロンドン市エンジェルレーン1 (東京都中央区日本橋1丁目9-1)	257	1.84
計	-	5,876	41.98

(注) 上記のほか、自己株式が2,227千株あります。

(8) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,227,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,767,300	117,673	-
単元未満株式	普通株式 5,100	-	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	14,000,000	-	-
総株主の議決権	-	117,673	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の株式数の欄には、証券保管振替機構名義の株式が4千株含まれております。
 なお、同機構名義の株式に係る議決権の数40個は「議決権の数(個)」の欄に含まれております。

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
イハラサイエンス(株)	東京都港区高輪3丁 目11-3	2,227,600	-	2,227,600	15.91
計	-	2,227,600	-	2,227,600	15.91

(9) 【ストックオプション制度の内容】
 該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	119	101,922
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成27年6月5日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	2,227,635	-	2,227,635	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成27年6月5日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様の利益を最も重要な課題のひとつと考え、企業体質の強化と今後の事業展開に備える内部留保の確保を考慮した上で、業績に応じた株主配当を実施していくことを基本としております。

当社は、期末に年1回の剰余金の配当を行うことを基本としております。なお、当社は会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる旨、定款に定めております。これら剰余金の配当の決定機関は取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり22円の配当を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向は25.3%となりました。

内部留保金につきましては、不測の事態に備えるとともに、事業拡大のための製品開発及び市場開拓資金等に有効投資してまいりたいと考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下の通りであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年5月14日 取締役会決議	258	22

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	64期	65期	66期	67期	68期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
最高(円)	785	799	613	900	1,030
最低(円)	466	463	475	498	626

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
最高(円)	949	952	960	999	1,030	985
最低(円)	815	825	855	897	878	895

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性10名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役会長 最高執行役員		中野 琢雄	昭和16年7月22日生	昭和44年5月 当社入社 昭和58年5月 当社営業部長 平成元年6月 当社取締役営業部長 平成3年5月 当社常務取締役 平成7年10月 当社常務取締役CTS事業部長 平成8年10月 当社常務取締役STS事業部長 平成9年6月 当社専務取締役 平成11年5月 当社代表取締役社長 平成27年1月 当社代表取締役会長(現任)	(注)3	458
代表取締役社長		長尾 雅司	昭和24年1月27日生	昭和47年4月 (株)日立製作所入社 平成7年4月 (株)日立製作所土浦工場冷熱システム設計部長 平成15年4月 (株)日立インダストリーズ取締役冷熱事業部長 平成19年4月 日立アプライアンス(株)取締役大型冷熱本部長 平成19年10月 Hitachi Air Conditioning Products Europe, S.A. 社長 平成23年9月 当社入社 平成24年2月 当社執行役員市場開発室長兼海外営業部長 平成24年6月 当社取締役執行役員開発統轄室長兼市場開発室長兼海外営業部長 平成25年5月 当社取締役常務執行役員開発統轄室長兼営業本部長兼海外営業部長 平成26年6月 当社取締役常務執行役員開発統轄室長兼営業本部長 平成27年1月 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	37
取締役執行役員	G P 事業部長	長岡 敏	昭和37年3月16日生	昭和57年5月 山形伊原高圧(株)入社 平成12年4月 当社入社 平成19年4月 当社執行役員山形事業所長兼山形イハラ(株)取締役 平成22年6月 当社取締役執行役員CP事業部長兼山形事業所長兼山形イハラ(株)代表取締役 平成22年11月 当社取締役常務執行役員CP事業部長兼山形事業所長兼山形イハラ(株)代表取締役 平成23年1月 当社取締役常務執行役員CP事業部長兼経営統轄室長兼山形イハラ(株)代表取締役 平成24年6月 当社取締役常務執行役員営業統轄室長兼経営統轄室長兼山形イハラ(株)代表取締役 平成25年5月 当社取締役執行役員GP事業部長(現任)	(注)3	63

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役執行役員	C P事業部長 兼静岡事業所 長	日置 勝之	昭和38年4月1日生	昭和56年4月 当社入社 平成19年4月 当社執行役員岐阜事業所長 平成20年6月 当社取締役執行役員IT事業 部長兼岐阜事業所長 平成22年3月 当社取締役執行役員GP事業 部長兼I P E C事業部長 平成23年4月 当社取締役執行役員I P E C 事業部長 平成24年6月 当社取締役執行役員GP事業 部長兼生産統轄室長 平成25年1月 当社取締役執行役員C P事業 部長兼静岡事業所長 平成26年2月 当社取締役執行役員C P事業 部長兼静岡事業所長兼ユニッ トカンパニー社長 平成27年2月 当社取締役執行役員C P事業 部長兼静岡事業所長(現任)	(注)3	19
取締役執行役員	国内営業部長	岩本 純彦	昭和29年12月13日生	昭和52年4月 当社入社 平成21年1月 当社執行役員C S事業部静岡 事業所長 平成22年7月 当社執行役員市場開発室長 平成24年2月 当社執行役員C P事業部静岡 事業所長 平成24年5月 当社執行役員C P事業部長兼 静岡事業所長 平成24年6月 当社取締役執行役員C P事業 部長兼静岡事業所長 平成25年1月 当社取締役執行役員経営統轄 室長兼営業統轄室長 平成26年4月 当社取締役執行役員営業統轄 室長兼国内営業部長 平成27年1月 当社取締役執行役員国内営業 部長(現任)	(注)3	10
取締役執行役員	I P E C事業部 長	今久保 寿博	昭和26年10月27日生	昭和50年4月 (株)日立製作所入社 平成13年4月 (株)日立インダストリイズ土浦 製造本部長 平成18年4月 (株)日立プラントテクノロジー 機械システム副事業部長 平成21年4月 (株)日立ニコトランスミッシ ョン常務取締役 平成23年10月 日立ポンプ製造(無錫)有限 公司董事長 平成25年4月 当社入社 平成26年4月 当社執行役員生産統轄室長兼 M F事業部長 平成26年6月 当社取締役執行役員生産統轄 室長兼M F事業部長 平成27年1月 当社取締役執行役員I P E C 事業部長(現任)	(注)3	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 (監査等委員)		角田 逸郎	昭和29年8月23日生	昭和53年4月 (株)日立製作所入社 平成16年4月 日立空調システム(株)大型冷熱営業本部企画部長 平成24年4月 日立アプライアンス(株)大型冷熱本部企画部長 平成26年6月 当社監査役 平成27年6月 当社取締役(監査等委員)就任(現任)	(注)4	1
取締役 (監査等委員)		坪井 忠	昭和16年12月8日生	昭和41年4月 当社入社 平成元年6月 当社取締役生産本部長 平成9年6月 当社専務取締役 平成16年6月 当社常勤監査役 平成24年6月 当社相談役 平成26年6月 当社監査役 平成27年6月 当社取締役(監査等委員)就任(現任)	(注)4	60
取締役 (監査等委員)		河合 三彦	昭和19年7月3日生	昭和48年11月 監査法人朝日会計社(現有限責任あずさ監査法人)勤務 昭和51年2月 大山公認会計士共同事務所勤務 昭和59年9月 河合公認会計士・税理士事務所開設(現任) 平成19年6月 当社監査役 平成27年6月 当社取締役(監査等委員)就任(現任)	(注)4	12
取締役 (監査等委員)		林 央	昭和19年10月3日生	昭和45年4月 特殊法人理化学研究所(現国立研究開発法人理化学研究所)入所 昭和58年1月 グルノーブル工科大学助教授 昭和58年9月 グルノーブル工科大学招聘教授 平成62年1月 科学技術庁研究開発局総合研究科専門調査官 平成27年3月 理化学研究所退職 平成27年6月 当社取締役(監査等委員)就任(現任)	(注)4	-
計						671

- (注) 1. 平成27年6月19日開催の定時株主総会において定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査等委員会設置会社に移行しております。
2. 取締役角田逸郎、河合三彦及び林央は社外取締役であります。
3. 平成27年6月19日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 平成27年6月19日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
5. 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。執行役員は社長以下、取締役、幹部社員等10名で構成されております。
6. 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、監査等委員である取締役の補欠として、予め補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数
伊藤 哲	昭和8年8月3日生	昭和39年4月 弁護士登録 昭和58年4月 当社顧問弁護士就任 平成9年9月 上野総合法律事務所開設、現在に至る	- 株

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方)

当社グループは、コーポレート・ガバナンス体制の構築は経営上の最も重要な課題のひとつであると認識しております。そして、経営理念・方針を実現するために最も強い組織体制や仕組みを構築し、そこで施策が的確に行われることがコーポレート・ガバナンスの基本であると考えています。また、経営層だけでなく社員一人一人が高い倫理観に基づき、人々の信頼と期待を裏切らないよう行動することが重要であると考えています。

(1) 会社の企業統治の体制の概要及び当該企業統治の体制を採用する理由

会社の企業統治の体制の概要

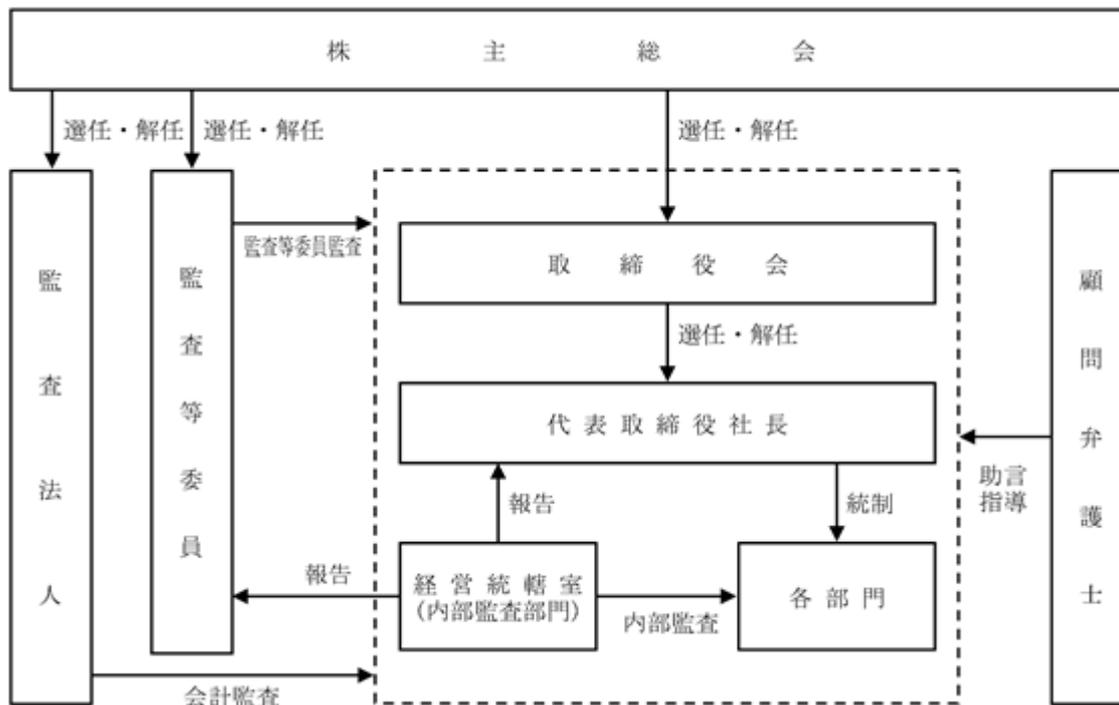
当社は監査等委員会制度を採用しており、役員構成は、取締役10名（監査等委員である取締役4名を含む）であります。監査等委員である取締役4名のうち3名は社外取締役であり、また独立役員であります。当社では平成10年10月より執行役員制度を導入し、月1回の執行役員会において意思決定の迅速化と監督機能の強化を図っております。また、会計監査人には定期的な監査のほか、会計上の課題についても随時相談・確認を行い、会計処理の透明性と正確性の向上に努めております。税務・法務関連業務に関しても、外部専門家と顧問契約を結び、随時アドバイスを受けております。

当該企業統治の体制を採用する理由

監査等委員は取締役会及び執行役員会に常時出席し、業務執行の適法性を中心に監査をしており、取締役及び執行役員の職務機能を十分に監視できる体制となっております。また、監査等委員3名は社外取締役であり、また独立役員であることから、社外の立場、または一般株主の立場から監視できる体制となっております。

会社の機関・内部統制の関係を示す図表

経営上の意思決定、執行及び監督にかかる経営管理組織、その他のコーポレート・ガバナンス体制は、下記の通りであります。



会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

取締役会は取締役10名で構成し、原則として月1回の定時取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。監査等委員については3名を社外取締役とし、取締役会のほか重要な会議に出席するなど、経営に対する監視機能の強化を図っています。

当社の内部統制システムといたしましては、経営統轄室が個人情報を含めた企業内の情報、そして法令・社内規範の重要性について啓蒙していくとともに、施策の検討・導入・社員への教育、内部監査という一連のサイクルを実施していくことにより、法令・社内規範を遵守する体制の構築を図っています。

内部監査及び監査等委員監査の状況

当社の内部監査につきましては、経営統轄室の内部監査部門（常勤1名）が、内部監査委員会とともに、内部監査規定に基づき法規、諸規定、制度秩序の遵守（コンプライアンス）、及び公正・適正な運用と管理状況を監査しております。また、適宜、監査等委員及び会計監査人とも意見交換を行い、内部統制システムの整備・運用状況に関するアドバイスも受けております。

監査等委員監査は、常勤監査等委員（1名）と非常勤監査等委員（3名）で実施しております。監査等委員4名は、取締役会及び執行役員会には常時出席するなど、業務執行の適法性を中心に監査をしており、取締役の職務執行を十分に監視できる体制となっております。また、非常勤監査等委員のうち1名は公認会計士及び税理士としての資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

監査等委員監査及び会計監査においては、相互の意見交換等を通じて監査等委員と会計監査人との連携を図り、その実効性を高めるよう努めています。

会計監査の状況

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数は以下の通りであります。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人	継続監査年数
業務執行社員 吉田 光一郎	東陽監査法人	6
業務執行社員 鈴木 裕子	東陽監査法人	5
業務執行社員 榎倉 昭夫	東陽監査法人	1

（注） 監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士6名、会計士補等1名となっております。

社外取締役

当社の社外取締役は3名であります。

社外取締役 角田逸郎は、当社役員との間に二親等以内の関係はなく、また、当社グループ会社では役員に就任しておりません。また、社外取締役河合三彦、同じく林央も同様であります。

また、社外取締役3名と当社との間には、資本的関係又は取引関係その他の利害関係もありません。社外取締役は会社の業務執行等に関与しなかった第三者的立場から監督を行えるため、監督機能を高める上で有効であり、また、一般株主と利益相反が生じる恐れのない者を独立役員として確保し、会社経営に目を光らせることができるためであります。

なお、社外取締役による監査と内部監査は定期的に行われ、監査等委員会監査は社外取締役の3名及び取締役（業務執行取締役等であるものを除く）1名で実施しております。また、適宜、会計監査人とも意見交換を行い、内部統制部門とも連携し監査に当たっております。

当社は、社外取締役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

当社は社外取締役を選任しております。当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役に対し、監査等委員4名中の3名を社外取締役とすることで経営への監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外取締役3名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

(2) リスク管理体制の整備の状況

会社の損失のリスクについては、全社統轄部門及び子会社を含めたそれぞれの事業部門において共通認識をし、評価（発生確率・影響度）を行い、未然防止・発生時対策を明確にします。またリスクが現実化し、重大な損害の発生が予想される場合には、担当取締役または執行役員は速やかに取締役会に報告する体制となっております。

そして、取締役及び執行役員は、会社に重大な損失を与える事項が発生し、または発生する恐れがあるとき、取締役・社員による違法または不正な行為を発見したとき、その他監査等委員会が報告を受けるべきものと定めた事項が生じたときは、監査等委員に報告します。また、事業部門を統括する取締役または執行役員は、監査等委員会と協議の上、担当する部門のリスク管理体制について報告する体制となっております。

(3) 役員の報酬等（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の種類別の総額（百万円）				対象となる役員の員数（名）
	報酬等の総額（百万円）	基本報酬	賞与	退職慰労引当金	
取締役	169	121	25	22	7
社外役員	16	12	1	2	4

(注) 1. 平成27年6月19日 定時株主総会の決議内容

(1)取締役 会社法第361条第1項および第2項 報酬限度額 年額5億円

(2)監査等委員である取締役 会社法第361条第1項および第2項 報酬限度額 年額70百万円

2. 上表の他に、使用人兼務取締役(4名)の使用人給与相当額35百万円があります。

3. 当期末在籍人員は、取締役6名、監査役3名です。

4. 役員報酬の決定方針は、法令又は定款に別段の定めがある事項以外については、当社役員報酬規定によって定められ、株主総会においてその総枠を決議し、配分方法の取り扱いを取締役会において協議し決定しております。

□ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(4) 取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨を定款に定めております。

(5) 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

また、取締役の解任決議について、株主総会において、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(6) 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(7) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の運営を円滑に行うことを目的とするものであります。

(8) 株式の保有状況

イ 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の金額
11銘柄 800百万円

□ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
名古屋銀行(株)	54,000	21	株式の安定化
(株)日伝	30,278	74	良好な取引関係維持のため
東芝機械(株)	20,000	9	良好な取引関係維持のため
住友重機械工業(株)	25,614	10	良好な取引関係維持のため
大陽日酸(株)	10,441	8	良好な取引関係維持のため
日精樹脂工業(株)	13,376	8	良好な取引関係維持のため
みずほ銀行(株)	7	1	株式の安定化
ミライアル(株)	30,800	44	良好な取引関係維持のため
(株)キッツ	106,800	53	良好な取引関係維持のため

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
名古屋銀行(株)	54,000	20	株式の安定化
(株)日伝	31,380	74	良好な取引関係維持のため
東芝機械(株)	20,000	4	良好な取引関係維持のため
住友重機械工業(株)	28,047	11	良好な取引関係維持のため
大陽日酸(株)	10,885	6	良好な取引関係維持のため
日精樹脂工業(株)	14,283	4	良好な取引関係維持のため
みずほ銀行(株)	7	0	株式の安定化
ミライアル(株)	186,300	298	良好な取引関係維持のため
(株)キッツ	404,600	201	良好な取引関係維持のため
(株)鳥羽洋行	56,000	99	良好な取引関係維持のため
(株)SCREENホールディングス	681	0	良好な取引関係維持のため

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	25	-	25	-
連結子会社	-	-	-	-
計	25	-	25	-

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日程等を勘案した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の財務諸表について、東陽監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、適正な財務諸表等を作成するための社内規定、マニュアル、指針等の整備を行っております。

また、監査法人及び証券取引所等の行う各種セミナーに参加し、適正な連結財務諸表等を作成する上で必要な情報を入手しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,717	3,537
受取手形及び売掛金	3,428	3,710
商品及び製品	348	330
仕掛品	393	374
原材料及び貯蔵品	718	796
繰延税金資産	82	73
その他	215	152
流動資産合計	8,905	8,976
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,501	1,434
機械装置及び運搬具（純額）	496	490
土地	1,420	1,420
建設仮勘定	113	104
その他（純額）	44	42
有形固定資産合計	1 3,577	1 3,493
無形固定資産	108	104
投資その他の資産		
投資有価証券	2 1,290	2 1,914
長期貸付金	2	1
生命保険積立金	62	69
関係会社長期貸付金	-	28
繰延税金資産	485	408
その他	42	41
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	1,881	2,463
固定資産合計	5,567	6,061
資産合計	14,472	15,037

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	453	533
1年内償還予定の社債	50	-
短期借入金	363	363
未払金	390	275
未払法人税等	413	374
役員賞与引当金	22	27
その他	130	216
流動負債合計	1,821	1,791
固定負債		
長期借入金	893	545
退職給付に係る負債	1,423	1,449
役員退職慰労引当金	185	194
資産除去債務	54	54
預り保証金	166	157
固定負債合計	2,722	2,402
負債合計	4,544	4,193
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,564	1,564
資本剰余金	618	618
利益剰余金	9,384	10,171
自己株式	1,674	1,674
株主資本合計	9,892	10,679
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5	95
為替換算調整勘定	30	69
その他の包括利益累計額合計	36	164
純資産合計	9,928	10,844
負債純資産合計	14,472	15,037

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	10,798	11,153
売上原価	17,322	17,634
売上総利益	3,475	3,518
販売費及び一般管理費	2,317,56	2,317,08
営業利益	1,719	1,809
営業外収益		
受取利息及び配当金	5	18
為替差益	35	44
その他	18	18
営業外収益合計	58	82
営業外費用		
支払利息	15	10
売上債権売却損	8	4
複合金融商品評価損	8	26
持分法による投資損失	30	93
その他	5	11
営業外費用合計	68	145
経常利益	1,709	1,746
特別損失		
減損損失	-	427
特別損失合計	-	27
税金等調整前当期純利益	1,709	1,718
法人税、住民税及び事業税	618	651
法人税等調整額	43	44
法人税等合計	661	695
少数株主損益調整前当期純利益	1,047	1,022
当期純利益	1,047	1,022

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,047	1,022
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	89
持分法適用会社に対する持分相当額	25	39
その他の包括利益合計	23	128
包括利益	1,070	1,151
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,070	1,151

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,564	618	8,511	1,742	8,951
当期変動額					
剰余金の配当			175		175
当期純利益			1,047		1,047
自己株式の取得				0	0
自己株式の処分		0		68	68
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	0	872	68	941
当期末残高	1,564	618	9,384	1,674	9,892

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	8	4	12	8,964
当期変動額				
剰余金の配当				175
当期純利益				1,047
自己株式の取得				0
自己株式の処分				68
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	25	23	23
当期変動額合計	2	25	23	964
当期末残高	5	30	36	9,928

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,564	618	9,384	1,674	9,892
当期変動額					
剰余金の配当			235		235
当期純利益			1,022		1,022
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	787	0	787
当期末残高	1,564	618	10,171	1,674	10,679

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	5	30	36	9,928
当期変動額				
剰余金の配当				235
当期純利益				1,022
自己株式の取得				0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	89	39	128	128
当期変動額合計	89	39	128	916
当期末残高	95	69	164	10,844

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,709	1,718
減価償却費	279	257
持分法による投資損益（は益）	30	93
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	49	26
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	1	9
役員賞与引当金の増減額（は減少）	22	5
貸倒引当金の増減額（は減少）	0	0
受取利息及び受取配当金	5	18
支払利息	15	10
為替差損益（は益）	2	0
複合金融商品評価損益（は益）	8	26
減損損失	-	27
売上債権の増減額（は増加）	1,424	282
たな卸資産の増減額（は増加）	99	39
仕入債務の増減額（は減少）	117	80
未払消費税等の増減額（は減少）	24	87
未払金の増減額（は減少）	27	31
その他	99	16
小計	562	2,017
利息及び配当金の受取額	5	18
利息の支払額	15	10
法人税等の支払額	453	691
営業活動によるキャッシュ・フロー	97	1,334
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	89	204
無形固定資産の取得による支出	7	11
投資有価証券の取得による支出	447	565
保険積立金の積立による支出	9	7
保険積立金の解約による収入	25	-
子会社株式の取得による支出	80	4
子会社出資金の取得による支出	50	60
その他	9	26
投資活動によるキャッシュ・フロー	649	879
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	36	-
長期借入金の返済による支出	348	348
社債の償還による支出	300	50
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の売却による収入	68	-
配当金の支払額	174	235
その他	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	790	633
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,344	179
現金及び現金同等物の期首残高	5,062	3,717
現金及び現金同等物の期末残高	3,717	3,537

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(イ) 連結子会社の数及び連結子会社の名称

- ・ 連結子会社の数 1社
- ・ 連結子会社の名称 山形イハラ(株)

(ロ) 連結範囲の変更

連結子会社であったイハラパイピングサービス株式会社は、当連結会計年度期首での当社による吸収合併により、連結子会社ではなくなりました。

(ハ) 非連結子会社の名称等

- ・ 非連結子会社の名称 台湾伊原科技股份有限公司
蘇州伊原流体系統科技有限公司
イハラコリア(株)
イハラサイエンスUSA(株)

・ 連結の範囲から除いた理由

非連結子会社はいずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純利益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

(ニ) 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度末日は、連結決算日と一致しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(イ) 持分法を適用した非連結子会社の数及び名称

- ・ 持分法適用非連結子会社の数 4社
- ・ 持分法適用非連結子会社の名称 台湾伊原科技股份有限公司
蘇州伊原流体系統科技有限公司
イハラコリア(株)
イハラサイエンスUSA(株)

(ロ) 持分法適用非連結子会社の事業年度等に関する事項

決算日が連結決算日と異なるため、持分法適用非連結子会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他の有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

ただし、組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品については、複合金融商品全体を時価評価し、評価差額は損益に計上しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

ロ たな卸資産

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

- 建物及び構築物 10～50年
- 機械装置及び運搬具 2～14年

ロ 無形固定資産

定額法

なお、ソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 重要な繰延資産の処理方法

社債発行費

支出時に全額費用処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。

ハ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(5) 退職給付に係る負債の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産残高に基づき計上しております。なお、当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは、部分完成した工事区間の配管長を工事契約の総配管長で除した割合に契約金額を乗じた金額を売上高とする出来高基準）

ロ その他の工事

工事完成基準

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式を採用しております。

（未適用の会計基準等）

- ・「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）
- ・「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）
- ・「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成25年9月13日）
- ・「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日）
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成25年9月13日）

1. 概要

本会計基準等は、子会社株式の追加取得等において、支配が継続している場合の子会社に対する親会社の持分変動の取扱い、取得関連費用の取扱い、当期純利益の表示及び少数株主持分から非支配株主持分への変更並びに暫定的な会計処理の取扱いを中心に改正されたものです。

2. 適用予定日

平成28年3月期の期首より適用予定です。

なお、暫定的な会計処理の取扱いについては、平成28年3月期の期首以後実施される企業結合から適用予定です。

3. 当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用による連結財務諸表に与える影響は未定です。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「持分法による投資損益」及び「未払消費税等の増減額」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた 43百万円は、「持分法による投資損益」30百万円、「未払消費税等の増減額」24百万円、「その他」 99百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
減価償却累計額	6,418百万円	6,563百万円

2 非連結子会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
投資有価証券(株式及び出資金)	199百万円	209百万円

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
	14百万円	5百万円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
荷造運搬費	226百万円	253百万円
役員報酬	138	134
給料手当	344	352
賞与	105	35
法定福利費	70	75
退職給付費用	40	27
役員退職慰労引当金繰入額	24	24
役員賞与引当金繰入額	22	27
地代家賃	39	33
旅費交通費	69	70
減価償却費	27	23
研究開発費	252	243

3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
	252百万円	243百万円

4 減損損失

前連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
遊休資産	岐阜県中津川市	建設仮勘定	27

当社グループは、原則として、事業用資産については事業所を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、事業の用に供していない遊休資産のうち、使用見込がない資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（27百万円）として特別損失に計上しております。なお、回収可能価額は、使用価値をゼロとして算定しております。

（連結包括利益計算書関係）

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	3百万円	131百万円
組替調整額	-	0
税効果調整前	3	132
税効果額	1	42
その他有価証券評価差額金	2	89
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	25	39
その他の包括利益合計	23	128

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	14,000	-	-	14,000
合計	14,000	-	-	14,000
自己株式				
普通株式(注)	2,318	0	91	2,227
合計	2,318	0	91	2,227

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少91千株は、自己株式の処分によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成25年5月14日 取締役会	普通株式	175	15	平成25年3月31日	平成25年6月24日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年5月14日 取締役会	普通株式	235	利益剰余金	20	平成26年3月31日	平成26年6月23日

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	14,000	-	-	14,000
合計	14,000	-	-	14,000
自己株式				
普通株式(注)	2,227	0	-	2,227
合計	2,227	0	-	2,227

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成26年5月14日 取締役会	普通株式	235	20	平成26年3月31日	平成26年6月23日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年5月14日 取締役会	普通株式	258	利益剰余金	22	平成27年3月31日	平成27年6月22日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
現金及び預金勘定	3,717百万円	3,537百万円
現金及び現金同等物	3,717	3,537

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

該当事項はありません。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりますが、重要性が乏しいと認められるため、記載を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

重要性が乏しいと認められるため、記載は省略しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業目的に沿った設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入や社債発行)を調達しております。

一次的な余剰資金は主に流動性が高く元本返還が確実であると判断した金融資産で運用しております。

デリバティブ取引は余剰資金運用目的の範囲内で、特性を評価し安全性が高いと判断された複合金融商品のみを選択しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、その一部の株式は市場価格の変動リスクに晒されております。また、デリバティブが組み込まれた金融商品等の投資有価証券は、債券市場価格及び為替変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

借入金、社債は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。借入金の返済期限は最長で決算日後11年であります。社債については、当連結会計年度中に全て償還されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)の管理

当社は、与信管理規定に従い、主要な取引先の状況をモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、信用リスクや取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。組込デリバティブのリスクが現物の金融資産に及ぶ可能性のある金融商品を購入する場合には、社内で十分協議を行うこととしております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価については、市場価格に基づく価額のほか、市場価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	3,717	3,717	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,428	3,428	-
(3) 投資有価証券	1,088	1,088	-
資産計	8,234	8,234	-
(1) 買掛金	453	453	-
(2) 1年内償還予定の社債	50	50	-
(3) 短期借入金	363	363	-
(4) 社債	-	-	-
(5) 長期借入金	893	888	5
負債計	1,759	1,754	5
デリバティブ取引	-	-	-

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	3,537	3,537	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,710	3,710	-
(3) 投資有価証券	1,703	1,703	-
資産計	8,951	8,951	-
(1) 買掛金	533	533	-
(2) 短期借入金	363	363	-
(3) 未払金	275	275	-
(4) 未払法人税等	374	374	-
(5) 長期借入金	545	540	5
負債計	2,092	2,087	5
デリバティブ取引	-	-	-

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの投資有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金、並びに(4) 未払法人税等

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

組込デリバティブ取引については、時価の測定を合理的に区分できないため、当該複合商品全体を「(3) 投資有価証券」に含めて記載しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
非上場株式	2	2
関係会社株式	118	66
関係会社出資金	80	142

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	3,717	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,428	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの 債券	-	835	-	-
合計	7,146	835	-	-

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	3,537	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,710	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの 債券	-	882	-	-
合計	7,248	882	-	-

4. 社債、及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成26年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	15	-	-	-	-	-
社債	50	-	-	-	-	-
長期借入金	348	348	348	28	28	140
合計	413	348	348	28	28	140

当連結会計年度（平成27年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	15	-	-	-	-	-
長期借入金	348	348	28	28	21	118
合計	363	348	28	28	21	118

（有価証券関係）

1. その他有価証券

前連結会計年度（平成26年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計 上額（百万円）	取得価額（百万 円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	233	213	19
	(2) 債券	209	207	1
	(3) その他	-	-	-
	小計	442	420	21
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	625	647	21
	(3) その他	20	20	0
	小計	646	667	21
合計		1,088	1,088	0

（注） 非上場株式（連結貸借対照表計上額2百万円）については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成27年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計 上額（百万円）	取得価額（百万 円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	527	424	103
	(2) 債券	485	422	63
	(3) その他	20	19	0
	小計	1,033	866	166
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	272	298	25
	(2) 債券	396	432	36
	(3) その他	-	-	-
	小計	669	731	62
合計		1,703	1,598	104

（注） 非上場株式（連結貸借対照表計上額2百万円）については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券
前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	20	-	0
合計	20	-	0

3. 減損処理を行った有価証券
前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）
該当事項はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 （百万円）	契約額等のうち 1年超 （百万円）	時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
市場取引以外の取引	複合金融商品	432	432	422	10
合計		432	432	422	10

- （注）1 時価の算定方法は取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。
2 組込デリバティブについて、時価の算定を合理的に区分して測定できないため、当複合金融商品全体を時価評価し評価差額を損益に計上しております。
3 契約金額等は、当該複合金融商品の取得価額を表示しており、時価については取引金融機関より提示されたものによっております。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 （百万円）	契約額等のうち 1年超 （百万円）	時価 （百万円）	評価損益 （百万円）
市場取引以外の取引	複合金融商品	432	432	396	36
合計		432	432	396	36

- （注）1 時価の算定方法は取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。
2 組込デリバティブについて、時価の算定を合理的に区分して測定できないため、当複合金融商品全体を時価評価し評価差額を損益に計上しております。
3 契約金額等は、当該複合金融商品の取得価額を表示しており、時価については取引金融機関より提示されたものによっております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

当社及び連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,472百万円	1,423百万円
退職給付費用	128	127
退職給付の支払額	128	87
制度への拠出額	49	14
退職給付債務の期末残高	1,423	1,449

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成26年3月31日)	(平成27年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	140百万円	157百万円
年金資産	138	148
	1	8
非積立型制度の退職給付債務	1,421	1,440
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,423	1,449
退職給付に係る負債	1,423	1,449
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,423	1,449

(3) 退職給付費用

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	128百万円	127百万円

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	30百万円	27百万円
たな卸資産評価損	38	31
資産除去債務	19	17
退職給付に係る負債	507	468
役員退職給付引当金	65	63
その他	45	69
繰延税金資産小計	707	675
評価性引当額	91	110
繰延税金資産合計	615	564
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	35	30
有価証券評価差額金	3	45
その他	8	6
繰延税金負債合計	47	82
繰延税金資産の純額	568	481

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率 (調整)	38.0%	35.6%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6	0.8
住民税均等割	0.7	0.8
試験研究費等の税額控除	2.7	1.6
持分法投資損益による影響	0.6	1.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	3.5
評価性引当額の見直しによる影響	1.0	0.1
その他	0.5	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.7	40.5

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については、33.1%に、平成28年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については32.3%となります。この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は46百万円減少し、法人税等調整額が51百万円、その他有価証券評価差額が4百万円それぞれ増加しております。

(企業結合等)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

建物に使用されている有害物質(アスベスト)に係る除去債務であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から25~38年と見積り、割引率は2.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
期首残高	54百万円	54百万円
時の経過による調整額	0	0
期末残高	54	54

(賃貸等不動産関係)

当社は、平成24年2月に東京都港区に本社ビル(土地を含む)を取得しており、一部フロアを賃貸しているため、賃貸不動産として使用される部分を含む不動産としております。

賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	1,239	1,226
期中増減額	12	3
期末残高	1,226	1,223
期末時価	1,252	1,252

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
 2. 期中増減額のうち、当連結会計年度の増加額は不動産取得(15百万円)であり、減少額は減価償却費(14百万円)除却(3百万円)であります。
 3. 当連結会計年度末の時価は、取得時と当連結会計年度末の公示価格に大きな変動がないため、取得原価をもって時価としております。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
賃貸収益	72	54
賃貸費用	17	17
差額	53	36

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、生産拠点ごとの事業所制を採用しており、各事業所は取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は事業所を基礎とした製品のセグメントから構成されており、「静岡事業所」、「岐阜事業所」、「山形事業所」、「IPEC岐阜事業所」の4つの報告セグメントとしております。

「静岡事業所」は、半導体及び液晶製造装置関連のクリーンなバルブ、配管ユニット等を生産しており、「岐阜事業所」は、油圧関連設備の継手、バルブ等を生産しており、「山形事業所」は、半導体及び液晶製造装置関連の継手、バルブ等を生産しており、「IPEC岐阜事業所」は、油圧関連装置のロング継手等の生産及び配管工事を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、棚卸資産の評価基準を除き、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

棚卸資産の評価については、収益性の低下に基づく簿価切下げ前の価額で評価しております。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	静岡事業所	岐阜事業所	山形事業所	IPEC岐阜事業所	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,980	3,790	3,283	1,173	10,228	570	10,798
セグメント間の内部売上高	146	460	180	47	834	-	834
計	2,126	4,251	3,464	1,220	11,062	570	11,633
セグメント利益	573	1,786	1,117	265	3,743	124	3,867
セグメント資産	792	1,291	1,963	320	4,367	521	4,888
セグメント負債	76	304	1,168	109	1,658	94	1,752
その他の項目							
減価償却費	28	98	81	26	236	11	247
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	15	112	34	17	180	7	187

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない販売子会社における商品売上等であります。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	静岡事業所	岐阜事業所	山形事業所	IPEC岐阜事業所	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,913	4,324	3,438	1,270	10,946	206	11,153
セグメント間の内部売上高	1	89	207	-	298	-	298
計	1,915	4,414	3,645	1,270	11,244	206	11,451
セグメント利益	370	1,655	1,218	230	3,475	61	3,537
セグメント資産	841	1,342	2,000	334	4,519	333	4,852
セグメント負債	111	308	1,139	94	1,652	-	1,652
その他の項目							
減価償却費	28	92	70	24	216	7	224
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	55	55	54	8	172	19	191

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない商品売上、及び不動産賃貸収入等であります。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	11,062	11,244
「その他」の区分の売上高	570	206
セグメント間取引消去	834	298
連結財務諸表の売上高	10,798	11,153

（単位：百万円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	3,743	3,475
「その他」の区分の利益	124	61
セグメント間取引消去	555	44
全社費用（注）	1,587	1,662
棚卸資産の調整額	6	20
連結財務諸表の営業利益	1,719	1,809

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費であります。

（単位：百万円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	4,367	4,519
「その他」の区分の資産	521	333
本社管理部門に対する債権の相殺消去	607	527
全社資産（注）	10,207	10,753
棚卸資産の調整額	15	40
連結財務諸表の資産合計	14,472	15,037

（注）全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社資産であります。

(単位：百万円)

負債	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,658	1,652
「その他」の区分の負債	94	-
本社管理部門に対する債務の消去	607	527
本社の退職給付に係る負債等	3,398	3,067
連結財務諸表の負債合計	4,544	4,193

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	236	216	11	7	32	33	279	257
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	180	172	7	19	6	13	194	205

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社に係る設備投資額であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	静岡事業所	岐阜事業所	山形事業所	IPEC事業所	計	その他	合計
減損損失	-	27	-	-	27	-	27

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）	当連結会計年度 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）
1株当たり純資産額	843.36円	921.18円
1株当たり当期純利益金額	89.62円	86.88円

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）	当連結会計年度 （自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額（百万円）	1,047	1,022
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額（百万円）	1,047	1,022
期中平均株式数（千株）	11,688	11,772

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
		平成 年 月					平成 年 月
イハラサイエ ンス(株)	第10回無担保社債	21.8.31	50 (50)	-	0.90	なし	26.8.29
合計	-	-	50 (50)	-	-	-	-

(注) 1. ()内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年内における償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内(百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
-	-	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	15	15	1.00	-
1年以内に返済予定の長期借入金	348	348	0.73	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	893	545	0.79	平成38年
その他有利子負債 預り保証金	126	126	1.40	-
合計	1,384	1,066	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
348	28	28	21

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	2,544	5,239	8,130	11,153
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	306	729	1,217	1,718
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	196	463	772	1,022
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	16.68	39.34	65.64	86.88

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	16.68	22.66	26.30	21.24

決算日後の状況
 特記事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,371	3,398
受取手形	1,955	1,165
売掛金	1,264	1,545
未収入金	34	45
商品及び製品	174	217
仕掛品	268	252
原材料及び貯蔵品	550	584
前渡金	14	15
前払費用	22	21
繰延税金資産	56	52
関係会社短期貸付金	86	83
その他	92	14
流動資産合計	7,891	8,395
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	944	910
構築物(純額)	51	49
機械及び装置(純額)	383	389
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品(純額)	35	33
土地	1,419	1,419
建設仮勘定	112	70
有形固定資産合計	2,947	2,873
無形固定資産		
借地権	57	57
ソフトウェア	25	23
その他	22	21
無形固定資産合計	105	103
投資その他の資産		
投資有価証券	1,080	1,705
関係会社株式	314	219
関係会社出資金	100	160
長期貸付金	2	1
関係会社長期貸付金	242	188
差入保証金	27	29
繰延税金資産	388	317
その他	71	78
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	2,226	2,699
固定資産合計	5,278	5,676
資産合計	13,170	14,072

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,493	1,608
1年内償還予定の社債	50	-
短期借入金	320	320
未払金	362	192
未払費用	0	0
未払法人税等	352	366
未払消費税等	47	128
前受金	5	6
預り金	44	43
役員賞与引当金	22	27
流動負債合計	1,697	1,694
固定負債		
長期借入金	640	320
退職給付引当金	1,159	1,175
役員退職慰労引当金	185	194
預り保証金	166	157
資産除去債務	54	54
固定負債合計	2,205	1,903
負債合計	3,902	3,597
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,564	1,564
資本剰余金		
資本準備金	618	618
その他資本剰余金	0	0
資本剰余金合計	618	618
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	64	63
特別償却準備金	19	11
繰越利益剰余金	8,670	9,796
利益剰余金合計	8,754	9,871
自己株式	1,674	1,674
株主資本合計	9,262	10,379
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5	95
評価・換算差額等合計	5	95
純資産合計	9,267	10,474
負債純資産合計	13,170	14,072

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	1 10,427	1 11,155
売上原価	1 7,480	1 7,945
売上総利益	2,946	3,209
販売費及び一般管理費	2 1,483	2 1,579
営業利益	1,463	1,630
営業外収益		
受取利息及び配当金	9	22
固定資産賃貸料	36	39
為替差益	35	49
雑収入	27	23
営業外収益合計	108	134
営業外費用		
支払利息	12	7
売上債権売却損	8	4
複合金融商品評価損	8	26
貸与設備償却費	10	12
雑損失	4	12
営業外費用合計	44	63
経常利益	1,527	1,701
特別利益		
固定資産売却益	3 4	3 -
抱合せ株式消滅差益	-	371
特別利益合計	4	371
特別損失		
減損損失	-	27
関係会社株式評価損	-	44
特別損失合計	-	72
税引前当期純利益	1,532	2,000
法人税、住民税及び事業税	551	616
法人税等調整額	38	32
法人税等合計	589	648
当期純利益	943	1,352

(売上原価明細書)

(単位 : 百万円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自	平成25年 4月 1日	(自	平成26年 4月 1日
	至	平成26年 3月31日)	至	平成27年 3月31日)
売上原価				
商品期首たな卸高		5		5
合併による受入高		-		0
当期商品仕入高		94		120
合計		99		126
商品期末たな卸高		5		5
商品売上原価		94		120
製品期首たな卸高		177		168
合併による受入高		-		38
当期製品製造原価		5,175		5,554
当期製品仕入高		2,286		2,352
合計		7,639		8,115
他勘定振替高		101		96
製品期末たな卸高		168		212
製品売上原価		7,368		7,806
その他の原価		17		17
売上原価合計		7,480		7,945

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計
					固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,564	618	-	618	68	-	7,917	7,986
当期変動額								
固定資産圧縮積立金の取崩					4		4	-
特別償却準備金の積立						19	19	-
剰余金の配当							175	175
当期純利益							943	943
自己株式の取得								
自己株式の処分			0	0				
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	0	0	4	19	752	767
当期末残高	1,564	618	0	618	64	19	8,670	8,754

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,742	8,425	8	8	8,433
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
特別償却準備金の積立		-			-
剰余金の配当		175			175
当期純利益		943			943
自己株式の取得	0	0			0
自己株式の処分	68	68			68
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			2	2	2
当期変動額合計	68	836	2	2	833
当期末残高	1,674	9,262	5	5	9,267

当事業年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計
					固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,564	618	0	618	64	19	8,670	8,754
当期変動額								
固定資産圧縮積立金の取崩					0		0	-
特別償却準備金の積立						8	8	-
剰余金の配当							235	235
当期純利益							1,352	1,352
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	0	8	1,125	1,116
当期末残高	1,564	618	0	618	63	11	9,796	9,871

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,674	9,262	5	5	9,267
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
特別償却準備金の積立		-			-
剰余金の配当		235			235
当期純利益		1,352			1,352
自己株式の取得	0	0			0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			90	90	90
当期変動額合計	0	1,116	90	90	1,206
当期末残高	1,674	10,379	95	95	10,474

【注記事項】

(重要な会計方針)

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式 移動平均法による原価法

其他有価証券

・時価のあるもの

事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

ただし、組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品については、複合金融商品全体を時価評価し、評価差額は損益に計上しております。

・時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 10～47年

機械及び装置 10～14年

無形固定資産

・自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

・その他の無形固定資産

定額法によっております。

繰延資産の処理方法

社債発行費

支出時に全額費用処理しております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、当期末における支給見込額を計上しております。なお、当期末の支給見込額として27百万円計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産残高に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(消費税等の会計処理)

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示したものを除く）

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対する主な債権・債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
短期金銭債権	197百万円	210百万円
短期金銭債務	187	271

2. 偶発債務

下記の連結子会社の借入金に対して債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
山形イハラ株式会社	296百万円	268百万円

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引

	前事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)
営業取引による取引高		
売上高	982百万円	314百万円
仕入高等	2,535百万円	2,626百万円
営業取引以外の取引による取引高	64百万円	54百万円

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度44%、当事業年度49%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度56%、当事業年度51%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)
給料及び手当	282百万円	329百万円
賞与引当金繰入額	58	71
退職給付費用	25	25
役員退職慰労引当金繰入額	22	24
役員賞与引当金繰入額	22	27
研究開発費	228	212
減価償却費	32	33

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)
機械及び装置	4百万円	- 百万円

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

子会社及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式314百万円、関係会社出資金100百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

子会社及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式219百万円、関係会社出資金160百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	413百万円	380百万円
役員退職慰労引当金	65百万円	63百万円
棚卸資産評価損	23百万円	20百万円
その他	80百万円	99百万円
繰延税金資産小計	583百万円	563百万円
評価性引当額	91百万円	110百万円
繰延税金資産合計	491百万円	452百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	2百万円	45百万円
固定資産圧縮積立金	35百万円	30百万円
特別償却準備金	6百万円	5百万円
その他	1百万円	1百万円
繰延税金負債合計	47百万円	82百万円
繰延税金資産の純額	444百万円	369百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	38.0%	35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に参入されない項目差異	0.6	0.6
住民税均等割	0.7	0.6
試験研究費等の税額控除	2.4	1.0
評価性引当額の見直しによる影響	1.2	1.0
抱合せ株式消滅差益	-	6.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	2.6
その他	0.5	0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.5	32.4

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については、33.1%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については32.3%となります。この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は36百万円減少し、法人税等調整額が41百万円、その他有価証券評価差額が4百万円それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

前事業年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

共通支配下の取引等

1. 結合当事企業の名称及びその事業の内容、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称及び取引の目的

(1) 結合当時企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称 イハラパイピングサービス株式会社(当社の100%子会社)

事業の内容 配管資材販売

(2) 企業結合日

平成26年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、イハラパイピングサービス株式会社を消滅会社とする吸収合併方式であります。なお、合併による新株式の発行および資本金の増加は行いません。

(4) 結合後企業の名称

イハラサイエンス株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社はイハラパイピングサービス株式会社との経営資源を集約し、更なる収益向上と経営効率化を図ることを目的に同社を吸収合併いたしました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	2,545	20	3	51	2,561	1,650
	構築物	322	4	-	3	327	277
	機械及び装置	3,622	107	-	101	3,729	3,340
	車両運搬具	12	1	0	0	13	13
	工具、器具及び備品	534	22	82	19	474	441
	土地	1,419	-	-	-	1,419	-
	建設仮勘定	112	107	149 (27)	-	70	-
	計	8,570	264	236 (27)	175	8,597	5,724
無形固定資産	借地権	57	-	-	-	57	-
	ソフトウェア	44	9	1	10	52	28
	その他無形固定資産	43	5	11	5	39	16
	計	146	14	12	16	148	46

(注) 当期増減額の主なものは下記のとおりであります。

- 1.建物 増加額 本社 15百万円
- 2.機械及び装置 増加額 岐阜事業所 48百万円、静岡事業所 32百万円、I P E C事業所 9百万円
- 3.工具、器具及び備品 増加額 本社 12百万円、静岡事業所 7百万円
- 4.建設仮勘定 増加額 岐阜事業所 56百万円、静岡事業所 49百万円
減少額 岐阜事業所 83百万円、I P E C事業所 20百万円、静岡事業所 45百万円
- 5.当期首残高及び当期末残高は、取得価額により記載しております。
- 6.「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	0	0	0	0
役員賞与引当金	22	27	22	27
役員退職慰労引当金	185	24	14	194

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	東京都において発行する日本経済新聞
株主に対する特典	なし

- (注) 1. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株主の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。
2. 平成26年6月20日開催の定時株主総会の決議により定款の一部が変更され、当社の公告方法は電子公告により行うこととなりました。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- なお、当社の公告掲載URLは次のとおりです。
- <http://www.ihara-sc.co.jp/>

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

1 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第67期）（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）平成26年6月23日関東財務局長に提出。

2 内部統制報告書及びその添付書類

平成26年6月23日関東財務局長に提出

3 四半期報告書及び確認書

（第68期第1四半期）（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）平成26年8月13日関東財務局長に提出。

（第68期第2四半期）（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）平成26年11月13日関東財務局長に提出。

（第68期第3四半期）（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）平成27年2月12日関東財務局長に提出。

4 臨時報告書

平成26年6月26日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年6月22日

イハラサイエンス株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 吉田 光一郎 印

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 鈴木 裕子 印

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 榎倉 昭夫 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているイハラサイエンス株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、イハラサイエンス株式会社及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、イハラサイエンス株式会社の平成27年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、イハラサイエンス株式会社が平成27年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年 6月22日

イハラサイエンス株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 吉田 光一郎 印

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 鈴木 裕子 印

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 榎倉 昭夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているイハラサイエンス株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第68期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、イハラサイエンス株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。